

移動運用への目覚め、及びHF帯アンテナ作成について (BY JK1SBK)

移動運用については、今までポタ電、アンテナの用意等装備化にお金が掛かり大変だと云う思いから躊躇していましたが、7月13日の50.240の技術講習会の折にRIZ久保田OMから声を掛けて頂き50M帯2ELΔループアンテナを頂けることになり、7月18日に比良の丘でアイコンタクトを実施し、実物を貰い受けしました。これから、このアンテナをどうやって使い熟そうか、自宅のマンションのベランダでは大き過ぎて立てられないしと考えを巡らせた時、そうだ、自宅からフィールドに出て”移動運用が最適だ”！やって見ようと思いました。

そこで、移動運用をするには、まず、ポータブル電源を手配しなければ！と言うことでAmazonを検索したら丁度、Jackeryの500Wクラスで新発売の物がヒットし、定価の40%割引で掲載されていたので、即ポチりました。

途中、車の貰い事故等で約1カ月位動けなかったのですが、長野・新潟・山梨県への旅行の前後から、RIZ久保田OMとの比良の丘でのアイボールを通してΔループアンテナの R_{ef}/R_a のワイヤーの長さの変化でSWR値が変化するのか実験しました。久保田OMから引き継いだワイヤー②が、 $SWR=1.5$ 以下の帯域が広く一番良かったので、引き続き使っています。

もともと、アマチュア無線を始める時に、高校時代(1970年代初頭)の学友が50M帯SSBをやっていて、すごく憧れが有り、自分がアマチュア無線を始めるなら絶対50M帯SSBをやるぞ！と思っていたので、思いが一つ叶いました。

スポラ発生の時期が過ぎていて、来季まで本格運用は、お預けの状態です。しかし、関東近県相手では、良好に動作(+5dB)し良く飛びます。

次は、7M帯のアンテナ作成の件です。自宅のベランダのRadix V型ダイポールは、短縮コイルを付けて水平偏波で運用していますが、2.0のSWR値の帯域が狭くて不満に思っていました。移動運用に当たり、まず、7M帯のフルサイズのダブルレットアンテナを作成しようと考え、RIZ久保田OMにサポートして貰いながら、ワイヤーをNano Vnaを使って、CutしてはSWRの測定を繰り返すことを続け10月下旬に作成出来ました。次の日、運用しようとアンテナを設置し、運用前に念のためSWRをNano Vnaで測定すると、SWRの放物線が現れず何でだ！となり、ここから原因の追及。リグとの間の同軸ケーブル、Nano Vnaの測定環境の設定等を自宅のベランダ設置の50Mダブルレットテナを使って切り分けを行い、移動運用で使った同軸ケーブル、Nano Vnaともに異常無く正常に値が出てくる。もうバランしか無いなと思いフレンズの社長の所へ行き、事情を説明した所、『社長曰く、何ワット入れたの』、『私、40ワット』、買ったのがコメット製の安いQRP用だったようで『社長曰く、それじゃバランが壊れるよとのこと』運用しパワーを入れた時に、バランが壊れた様で、新たに第一電波工業のBU-55を買って取り付け7M帯(7.030~7.200) SWR(1.21~1.69) 11月上旬より良好に運用しています。また、21M帯のダブルレットアンテナも同じ方法(Cut & Try)で作成し、2本張りで運用を始めました。

なお、他バンドにも興味が沸き、RIZ久保田OMに賑やかなバンドを教えて貰った所、10M帯CW、14M帯ボイスの情報をゲットし、14M帯のダブルレットアンテナを同じ方法(Cut & Try)で作成しました。いざ、3本張りで運用しようとアンテナを張ってNano Vnaで各7M、21M、14MのSWRを測定した所、21M帯のアンテナのSWRが作成時の値から大きくかけ離れていました。

そう言えば、7M、21Mアンテナ設置時、RIZ久保田OMにアンテナを張る時、間隔は離れた方が良いですかねと相談したことを思い出して、7M、14Mの間隔の倍位空けて21Mアンテナを張った所、SWRは、作成時の値に落ち着きました。

14M帯は、7M帯に負けず劣らず本当に賑やかなバンドですね～ビックリしました。12月13日からは、7M・14M・21M帯の3本張りの本格運用をすることが出来る様に成りました。今まで、9コールエリアのOMさんとQSO出来て、日本の10コールエリアで唯一QSOが出来ていなかった『0エリア』を12月13日に14M帯（長野県南千曲郡モービル0）でクリアすることが出来、最初に掲げた”日本の10コールエリアのQSO達成”し感激しました。次の目標は、”全県のOMさんとのQSOの達成”です。なお、7M・14M・21M帯をカバーしたことで、全国のOMさんと、身近にQSOが出来て最高です！！

12月28日には、14M帯で比良の丘～沖縄県八重山群与那国島（2000km）とのQSOが出来ました。無線で、”より遠くのOMさんとQSOする”楽しさが、ますます広がり、移動運用に、”のめり込み”そうです。

以上、移動運用、並びにHF帯アンテナ作成について、お話して来ましたが、令和8年度は、今以上に、移動運用を重点的に実施して行きたいと思っています。

最後に、移動運用に目覚めるきっかけ、並びに、7M・21Mダブレットアンテナの作成をサポートして頂いたRIZ久保田OMに、改めまして、この場を借りて、お礼を申し上げます。ありがとうございました。

今後とも、”比良の丘の移動運用”ともども宜しく願ひいたします



比良の丘での移動運用風景（7M・14M・21Mマルチ運用）